

鈴木秀太郎 ヴァイオリンコンサート

ピアノ / ゼイダ・ルガ・鈴木



鈴木秀太郎

2017

10.15 SUN

14:00開演 ■入場無料

鈴木鎮一記念館
展示ホール (定員80名)



ゼイダ・ルガ・鈴木

Program

- | | |
|---------------|--------------------------------|
| W. A. モーツァルト | ロンドハ長調 K. 373 |
| R. シューマン | ヴァイオリン・ソナタ 第1番 イ短調 Op. 105 |
| F. ショパン | 夜想曲 |
| C. ドビュッシー | 亜麻色の髪の乙女 |
| M. ファリャ | スペイン舞曲 |
| A. テイタム | ランニング・ワイルド |
| A. ガルシア・カトゥーラ | 田舎の子守歌 |
| R. ベガ | ダンス・クバーナ |
| A. ドヴォルジャーク | ヴァイオリンとピアノのためのソナチネ ト長調 Op. 100 |

Profile

鈴木秀太郎：ヴァイオリン



1941～44年、鈴木鎮一先生に、東京用賀のお宅で手ほどきを受け、その後、鷺見三郎、パウル・クリンゲルに師事。桐朋学園高校音楽科を経て、カーチス音楽院に留学。エフレム・ジンバリストに7年間学んだ。第20回全日本音楽コンクールでの大賞受賞をはじめ、チャイコフスキー、エリザベート、モントリオールの各国国際コンクールでも上位入賞に輝き、1961年以来、ゼイダとともに世界各地で演奏活動を行なっている。二人の合奏は、今年56年目を迎える。

オーケストラのコンサートマスターとしては、ケベック交響楽団で16年、インディアナポリス交響楽団で27年務め、同時に独奏者としてもNHK交響楽団、東響、読響、日本フィル、東京都響、大阪、京都、名古屋、札幌、九州の各オーケストラ、香港、モスクワ、レニングラード、ミンスク、パリ、ブリュッセル、トロント、モントリオール、インディアナポリス、ケベック、ハバナ、その他数多くの交響楽団と長年にわたり共演してきた。また、指揮者としても、ケベック、インディアナポリスで定期的に活動を続け、日本でも東響、読響、札幌、また、香港フィルとも共演している。

教師としては、ケベック州立音楽院、ラバール大学、インディアナポリスのバトラー大学音楽部などの教授を務め、インディアナポリスでは、SUZUKI AND FRIENDSという室内楽コンサートシリーズを組んで、27年間にわたり、ゼイダとともに主軸奏者として活躍。堤剛さん、竹澤恭子さんなどがゲストとして参加している。

この幅広い音楽活動の成果を認められ、インディアナポリス市からは、ゼイダとともに文化奨励賞を授与された。現在もリサイタルや室内楽を通して、マルボロ、グラント、テトン、ストラトフォードその他の音楽祭でも活動が続けている。

ゼイダ・ルガ・鈴木：ピアノ



出身地キューバのハバナ市立音楽院を12歳で卒業。16歳の時、米国カーチス音楽院に入学。ルドルフ・ゼルキンに学んだ。カナダ・ケベック市在住中は、ラバール大学音楽部の室内楽主任教授を務めるかたわら、夫の秀太郎とともに室内楽団を創設し、16年間にわたって定期演奏会を企画、主軸奏者として活躍した。

米国インディアナポリスに移ったあとも、秀太郎と米国、カナダはもちろん、中南米、ヨーロッパ各地、ロシアの主要都市、香港、インドなどで活動を続け、日本でも1964年を皮切りにほとんど毎年のごとく各地で演奏旅行を続けてきた。

秀太郎との共演のほか、室内楽奏者、また独奏者としても活躍。日本では東京交響楽団、札幌交響楽団などとも長年にわたって共演している。

インディアナポリスでは、インディアナ大学音楽部のピアノ科講師を務めるかたわら、27年間にわたり室内楽シリーズSUZUKI AND FRIENDSの企画を担当。主軸奏者として活躍した。加えて、数多くの弦楽四重奏団とも共演。米国、カナダ、スイスなどでの音楽祭にも定期的に参加するなど、広範囲の音楽活動に専念してきた。インディアナポリス市からは、文化奨励賞を授与されている。

現在は、ワシントン市郊外に住居を置いて、活動が続けている。